

長崎県幼児教育センターだより



No. 20



2025. 11. 4



幼児教育研究協議会(長崎県委託)が開催されました！

御堂青い実幼稚園

10月28日 於：アルカス佐世保

「小学校との円滑な接続を目指して～遊びの中で教え合う、学び合う～」がテーマでした。これまでの「交流」から「連携」へ意識を変え、3つの資質・能力をつないでいくための取組がわかる研究内容でした。多くの成果や課題と対応策があがりましたが、

- ・互いに目指す子ども像や課題を共有できた
- ・小学校へ出向きやすくなった

この2点は、幼保小連携の基礎づくりとして、大事な成果となりました。

協議では、そもそも連携の意義や子ども主体の幼児教育をどう伝えるかなど、活発に意見交換がなされました。

- ・受け身にならず、幼児教育側からのアプローチを今まで以上にしていきたい。
- ・横（幼児教育施設同士）のつながりも今後はしていきたい。

といった、前向きな意見が多くありました。

「職員同士の交流する時間がない」「園に来てもらうことが少ない」など、課題が多い幼保小連携ですが、各園や小学校区でも「互いの教育保育を理解する」ための具体的な一歩を踏み出してほしいと思います。



新規採用、中堅研修！

10月23日に新規採用と中堅（11～15年目）の先生方対象の研修会が大村のミライ on 図書館で開催されました。研修内容の1つに中堅の先生方（メンター）と新規採用の先生（メンティー）が日頃の保育についての悩みや相談をする時間があり、大変有意義な時間となりました。

メンター、メンティーの交流はありませんが、今回の内容を基本としたオンライン研修を12月に開催いたします。先日、開催案内を発出しておりますので、貴園に対象の先生がいらっしゃれば、ぜひ、参加をご検討ください。

幼保小連携実態調査ありがとうございました



R6 実績の調査へのご協力ありがとうございました。県が指標にしている「幼保小との交流に向けた職員同士の協議の実施率」（目標値 90%）は 67.5% でした。交流活動はあっても、その前後に協議がもてないという園も多くあるということもわかりました。

今後も、子どもの育ちをつなぐ連携のために、先生方同士も顔見知りになることからはじめ、交流活動の充実を目指していってほしいと思います。そのために、交流活動の前後に職員同士の協議の時間を確保することが大切になってくると思います。来年度の年間予定に交流活動と、職員同士の協議を位置付けるような働きかけをしてみてはいかがでしょうか。

令和7年度長崎県保育士等キャリアアップ研修 二次募集のお知らせ

二次募集期間：令和7年10月27日から11月10日（最終日の申込期限は17時）

詳細は県ホームページ（[処遇改善等加算（区分3）に係る研修（保育士等キャリアアップ研修、実施機関の指定、実施主体の認定など） | 長崎県](#)）をご覧ください。

（文責：高田 敦）

幼児教育アドバイザー訪問支援の感想より

保育をしている姿をアドバイザーの方から見られている緊張感があり、そして研修会が始まるときには、何を言われるだろうと不安感がありました。でも、研修会が始まると映像を見ながら、職員の保育の良かったとところを解説も入れながら言っていただき、徐々に緊張と不安は和らいでいきました。
（保育者）

正直な気持ちを感想に書いていただきました。誰でも初めてのことには緊張します。でも、一度訪問支援を受けてみると、その良さを実感していただけます。

アドバイザーの方の助言をいただくことで、普段行っている保育の意味の再確認ができたり、違う保育の展開ができることに気付かされたり、自分の保育や他の保育教諭の保育を写真で見ることにより、新たな気付きがあつたりしました。また、保育教諭がしっかりと意味を理解し、子どもと関わることで、言葉かけや援助の仕方が変わってくるので、常に振り返りをすることで、次に生かせるようになると思いました。他の保育教諭の言葉かけや寄り添い方が、とても良かったりすることを見ることで自分自身の学びへつながりました。

このような研修を繰り返すことで、保育教諭一人一人の質の向上につながっていくと思いました。
（管理職）

出かけて行く研修は、一度に数名しか受けられませんが、訪問支援なら園にいながらにして、一度に複数の方に受けていただくことができます。また、一般論ではなく、自園の保育について具体例を基に、保育における大切なことを共通理解することができます。

まだ訪問支援を受けたことがない園は、一度試してみられませんか？
（センター長 室野）